

事務局だより

1. 3月1日現在会員数

湘南の秋山泰一様が2023年2月12日に逝去されました。永らくじゃおクラブの活動を支えてくださいました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

湘南	県央	ベイサイド	多摩・田園	計
39	34	31	29	133名（Eグループ会員：119名）

2. 運営委員会報告

第32回通常総会について

コロナ禍を乗り越え、第32回通常総会是对面で開催します。今後は“コロナとの共存”が進むと考え、コロナ関連の規制が緩和されている前提です。総会終了後には、ささやかですが懇親会を開催します。総会と懇親会が地域じゃおを超えた交流の機会となるようお願いしております。

開催日：5月21日（日）

場所：オルタナティブ生活館 オルタリアン

総会：13:00~14:30

懇親会：14:30~16:00



第27回総会 2018年

協議事項 要点は以下の通りです。詳細は議事録をご覧ください。

1) 第32回通常総会の議案書作成作業について

通常総会議案書を初稿に基づいて検討・議論した上、修正を加えました。今回の運営委員会の結果を原稿に反映して、通常総会議案書が完成します。

2) 各活動参加者の地域じゃお別構成とその対応方策について

湘南より、他地域からの活動への参加者について、主催する地域の会計や世話役の負担への配慮を検討してもよいのではないかと提案がありました。

議論では、「湘南以外は、他地域からの参加者は気にしていないし、人数も数えていない。」

「湘南の提案はじゃおクラブの基本方針に反する。」「人数のアンバランスより、ホームグラウンドとしてどの地域が最適かで決まる。」などの意見があり、大方は提案に否定的でした。

3. 次回の運営委員会

日時：2023年5月21日（日）10:30~12:00 オルタ館 303会議室

第32回通常総会の議事運営について打ち合わせ。議長：大澤委員、書記：竹内委員

観音巡礼 200 寺をめざして

県央 野木 幹夫

今から 10 年ほど前、無神論者の私が喜寿に近づいてなお元気でいられるのは神仏のお陰もあると考え、感謝の念から観音巡礼（以下巡礼）を思い立ちました。様々な巡礼方法の中より、坂東三十三寺、秩父三十四寺、西国三十三寺を合わせた百寺巡礼と、五木寛之編の「百寺巡礼」と合わせ二百寺巡礼に挑戦してみようと決めました。巡礼の心得をお遍路経験者の友人より、お寺では白衣の上から輪袈裟をかけ、ご本尊の前で般若心経を読経し御法印（御朱印）を頂くのが習わしと聞き、般若心経読経の練習をした後、平成 24 年夏に坂東三十三寺巡礼より始めました。

- ・ 坂東三十三寺巡礼

鎌倉時代、西国三十三寺巡礼信仰が関東におよび、源実朝の頃に制定されたそうです。観音信仰が修行僧により盛んとなり江戸時代には、巡礼の名目ならば往来の自由が許され庶民の間にも広まったそうです。お寺は 1 都 6 県に及んでおり、一番札所は鎌倉の杉本寺、三十四番札所は千葉の那古寺でした。お寺は神奈川県が一番多く 9 寺以下は千葉 7 寺、栃木 6 寺、埼玉 4 寺、茨木 4 寺、群馬 2 寺、東京は浅草寺だけでした。私は車を利用した日帰り巡礼でしたが 1 年で詣でることが出来ました。

- ・ 秩父三十四寺巡礼

秩父の寺は江戸の北西に位置することから「現世の浄土」とされ江戸庶民の信仰対象として大いに賑わったそうです、一番札所四萬部寺から三十四番札所水潜寺までの 34 寺が 100km 圏内に集まっていました。詣でたご本尊では観音様を代表するといわれる、聖観音様が一番多く 22 寺あり、二十八番札所・橋立寺には珍しく馬頭観音様がありました。

- ・ 西国三十三寺巡礼

この巡礼の歴史は古く 718 年（養老 2 年）、大和長谷寺の得道上人によって始められたそうです。和歌山的那智の滝を見下ろす一番札所・青岸渡寺から岐阜の三十三番札所・華嚴寺までに 2 府 5 県（京都府 11 寺、大阪府 4 寺、和歌山 3 寺、奈良 4 寺、兵庫 4 寺、滋賀 6 寺、岐阜 1 寺）に及んでいました。最後に詣でた華嚴寺では柱に打付けた青銅の鯉に触れ、俗界に戻って来たとの伝えが有りました。尚、西国巡礼を終えた後は長野の善光寺さんへ御蔭詣りの習わしが有ることなので出かけました。本堂下の暗闇の洞を手探りで抜けるのは初めての経験でした。

上記の百寺巡礼を約 3 年かけて済ませた後、古書店で見つけた五木寛之編の「百寺巡礼」の CD と本を参考に、全国の由緒あるお寺の巡礼と日本の原風景を楽しみたく新たな百寺巡礼を平成 27 年夏より始めました。年齢の事もあり近場は後回しにして遠方よりと考え、イタコで有名な下北半島の恐山・菩提寺から始めました。その後は大分耶馬溪近くの羅漢寺、徳島の四国遍路の一番札所・霊山寺、鳥取の霊峰大山の中腹に立つ大山寺、その他各地のお寺を詣でました。しかし令和 2 年春、残り 17 寺を残したところでコロナ蔓延のため中断となりました。八十路も半ばになる私にとって 183 寺までの巡礼で止まっているこの 3 年間が残念でならない次第です。

早春の新林公園

湘南 早川 賢

新林公園は藤沢市の南部に位置し、駅から徒歩 10 分程の所にある公園です。周囲は工場や小学校、住宅に囲まれているにも拘わらず豊かな自然環境が保全されていて、園内には藁葺きの古民家や溜め池、遊歩道、アスレチック等が整備され、里山の風情が色濃く感じられます。早春の 3 月、公園で出会った生き物たちを紹介したいと思います。

まず、公園中央にある池で悠然と泳いでいたのはカモ科のカルガモ(*Anas zonorhyncha*)。TV 番組で「一家のお引っ越し」が特集となる、あのカモです。どうやら市内に住み着いた様子で、ここでは、ほぼ一年中みられます。(写真 1)

奥の溜め池の塀を我が物顔に動き回っていたのはリス科のクリハラリス (旧：タイワンリス、*Callosciurus erythraeus*)。可愛い姿と所作で観光客には人気者ですが、日本の生態系にとっては繁殖力が強く在来種の脅威となっている迷惑な緊急対策外来種です。(写真 2)

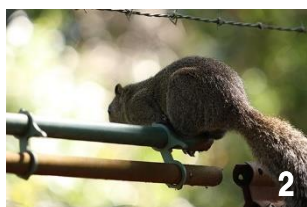
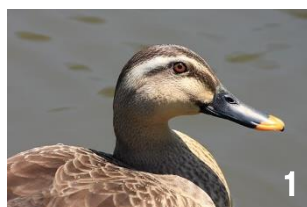
遊歩道入り口で日なたぼっこしていたのはタテハチョウ科のテングチョウ(*Libythea celtis*)。成虫で越冬し、春先にモンシロチョウよりも早く出現します。名前の由来は特徴的な頭部の形状で、食草はエノキ。(写真 3)

きつい坂を登ると、雑木林の中に真っ先に咲いていたのはキブシ科のキブシ (*Stachyurus praecox*)。雌雄異株で長さ 5~10cm の淡黄色の花穂が特徴的な落葉低木です。(写真 4)

アップダウンをしばらく歩き、頂上部の尾根道で見られたのはスイカズラ科のウグイスカグラ (*Lonicera gracilipes* var. *glabra*)。日本固有種で、春先に小さな淡紅色の花をつける落葉低木です。(写真 5)

下り始めて、遊歩道のすぐ脇にひっそりと咲いていたのはセンリョウ科のヒトリシズカ (*Chloranthus quadrifolius*)。花びらはなく、白く見えるのは雄しべの花糸です。春先に群生する姿は可憐で、愛好家に人気があります。(写真 6)

新林公園は四季折々の草花が見られ、愛犬家に「お勧め」ですが、私には遊歩道の登り坂が…もはや体力の限界…です。(泣)



写真

- 1) カルガモ
- 2) クリハラリス
- 3) テングチョウ
- 4) キブシ
- 5) ウグイスカグラ
- 6) ヒトリシズカ

農園日記 2023.3.11

今日は3月11日。3月に入って2回目の農園日である。雲一つない青空が美しい。天気予報によると最高気温は20度を超えるそうだ。参加者は19名。朝礼とラジオ体操第一を終えるとみんな揃って新一号畑に向かう。今日の作業は野菜の残滓を埋めるための「穴掘り」と休憩のための「架設施設」の移動と「収穫」である。休憩施設には夏の炎暑から身を守るためニガウリを植える予定だ。



すでに、大根、白菜、株などの冬野菜の収穫が終わり、じゃが芋の植え付けも終わっている。

一同は畑に着くとすぐに手分けして仕事に取りかかる。今日の収穫のメインはブロッコリーとロマネスコ、そしてキャベツだ。ブロッコリーは脇芽の成長したものを収穫するのだが、もう盛りを過ぎて来週には花が咲きそう。なにしろ300株あるので選びながら旨そうなやつを収穫するのは、たいへんである。ロマネスコは30数個、キャベツはカタチが良いものが60数個収穫できた。キャベツは一人3個持ち帰るのだから、

これまたたいへんである。今年のロマネスコは植え付け時期が良かったのか、害虫の被害がすくなく豊作だ。市場では1個500円するという。持ち帰った採りたてのロマネスコを茹でて食べたのだがホクホクとしてとてもうまい。最高の贅沢を味わえるのはじゃお農園だからこそだ。

キャベツ畑とブロッコリー畑は3月中に片付けて4月の種植えに備えるのだそうだ。現在新一号畑にある野菜は坊主知らず葱・らっきょう・ニンニク・玉ねぎ・わけぎ・ほうれん草などであり、4月には人参、牛蒡、枝豆の種まきと里芋と生姜の植え付けが予定されている。これからが忙しくなる季節である。頑張ろう。

今回掲載した写真は軽トラックに満載したキャベツと野菜の残滓に米糠をかけて肥料づくりをしている写真であるが、次号では「種植え」の様子をお伝えできと思う。



(湘南 島村 忠男 記・写真)

じゃお県央

第12回「すてきな仲間づくり相談会」に参加

3月5日(日)10:30から15:00 えびな市民活動センター・ビナレッジで開催された第12回「すてきな仲間づくり相談会」に「じゃお県央」が会員獲得を目指し参加しました。

海老名市内を中心に活動する様々なジャンルの趣味・ボランティア団体が一堂に会する催しで、活動の場を探す市民と仲間を求めるサークルの出会いの場です。

今回は、45サークルの参加で各サークルが趣向を凝らしたパネルの展示、体験などPR活動を行い、海老名駅～市役所～会場のシャトルバス運行もあり、この状況下で約200名の来場者がありました。

「じゃお県央」ブースも大きなポスター(A0サイズ)掲示、パソコンでの紹介と皆さんの熱心な説明で12名の方々に足を止めていただき、活動に興味を持たれ入会される方が3名と大きな成果がありました。コロナ禍で活動停滞の中、参加出来て良かったのではと思っています。会場プログラムのサークル紹介欄に別枠サイズで「じゃお県央」の有料掲載を試みたので今後の入会者に繋がることを期待しています。



今回は、会場2階フリースペースのワークショップにも「万華鏡づくり」で参加し午前中に16名の方々が作られ29個(2,900円)の販売がありました。

当日の設営者、説明者、参加者の皆さん大変お疲れ様でした。

また「ボランティア」は県央の大事な活動で、3月18日(土)10:00～14:00に海老名市社会福祉協議会主催「2023 えびなボランティアフェスタ」が海老名市総合福祉会館で行われワークショップに「万華鏡づくり」で参加しました。



朝からあいにくの雨でしたが、大勢の子供連れが訪れ当コーナーにも20組の親子が作りに参加し「手づくり万華鏡」の綺麗な出来栄に満足されたようでした。当日は28個(2,800円)の販売でした。

(県央 大場 幸雄 記・写真)

2023年3月定例そば打ち開催報告

今年度最後(6回目)の定例そば打ちを3月20日に湘南地区より3名と県央の10名計13名で実施しました。

湘南地区では5月にそば打ちを計画しており今回はその練習を兼ねて参加されました。川村さんの実演講習を約1時間受けてから二八そば300g10個を4セットの道具でこねる・延ばす・切るまで交代しながら打ち終わりました。打ち終わった「そば」は、300g8個(2.4kg)大鍋2個で約1分半茹でて水で洗いさらに冷水でしめてから大皿に盛り、薬味のきざみのり、揚げ玉、小ねぎ、大根おろし、自然薯、

わさびを伴に試食しましたが一人 200g 弱の量であった為少し足りないぐらいだったかもしれないと感じた位美味しく出来ました。

食べ終わった後のかたづけが大仕事、そば道具の清掃、鍋、皿椀等大量の容器を洗い布巾で拭いて、テーブルの上に並べてコミセンの担当者に確認をしてもらいます。



拭き足りない箇所、洗い足りない箇所や床面にそば粉小麦粉の散乱等指摘を受けその都度修正して OK が出てから元の戸棚に戻して終了となります。

今回は他地区からの参加者を迎えにぎやかなそば打ちとなりました。小ねぎ、大根、自然薯は湘南の農園と県央の農園から提供された物を活用しました。

次回は 5 月 15 日（月）です。（会場は国分コミセンを予約済み）

参加者： 鈴木・倉島・川村・大場・小林・大森・児嶋・石川・二宮・福山
湘南地区から 永井・早川・小坂

（県央 福山 信二 記・大場 幸雄 写真）

定例みかん園管理

3 月 15 日（水）ミカン園定例管理：参加者 9 名（県央 7 名、多摩田園 2 名）

快晴、気温は 20℃と 4 月中旬並みの、気持ちの良い天候でしたが、春霞のため富士山は残念遠望できませんでした。作業は、鶏糞、化成肥料の施肥、枝打ちを行いました。2022 年度最後の管理日なので、この 1 年間の労を野外料理でねぎらいました。料理は、近隣の青竹を切り出して、竹筒に酒をいれて焚火であたためる竹燗酒¹⁾、米と海鮮を詰めた竹筒飯²⁾をつくり、野趣をたのしみました。今年度は、温州ミカンのできが良くなかったので、原因をさぐりながら、2023 年の収穫向上を期します。



（県央 今村 義宏 記・石川 武司 写真）

参考

1) <https://kumamoto-sake-magazine.jp/article/gokanosyou-kappozake/>

2) <https://kumano-herb.jp/374/>

小田原の歴史と自然を巡る街スナップ～グラファーズ 3 月撮影会

グラファーズが小田原へ撮影に出かけた様子をお届けします。予定していた小田原フラワーセンターの「梅」が早く開花したため、急遽計画を変更し、小田原の街並みを撮影することにしました。3 月 7 日、JR 小田原駅改札に集合したメンバー 6 人は、まずは東海道を海へ向かって歩きました。

最初に「だるま料理店本店」の建物に出会いました。日本建築の美しさが有名で、歴史ある建物です。実際、建物の外観に、江戸時代から伝わる伝統的な日本建築の特徴を見ることができます。それから「中央労働金庫小田原支店」を經由して、たどり着いた「小田原宿なりわい交流館」が最初の休憩場所です。ここで提供された冷たい麦茶は、喉が渴いた私たちには、とてもありがたく感じられました。

その後、防潮扉のあるトンネルを抜けて「御幸の浜」へ向かいました。御幸の浜は明治 6 年に、明治天皇と皇后がおそろいで、漁夫の地引網をご覧になったことから、「御幸の浜」と呼ばれるようになりました。景色が良く、伊豆半島や三浦・房総半島も見渡せ、海辺の散策などが楽しめます。夏には、海水浴場も開設されます。この日は、海岸でのんびりと過ごす人々を見て、この海岸が地元、小田原の人々にとって大切な存在であると感じました。私自身も写真を撮りながら、この美しい自然を永遠に残したいと思いました。

海岸での撮影を楽しんだ後、かまぼこ通りに戻り、「すぎせい」で揚げたての「さつま揚げ」を食べました。地元のお客さんから「おいしいよ！」と言われた揚げたてのさつま揚げと、良く冷えた缶ビールは、汗ばむ陽気の中で最高でした。

小田原市内には、歴史ある建物や美しい街並みがたくさんあり、街スナップにはぴったりです。私たちは、この日の撮影で、小田原の街の魅力をたっぷりと感じました。



ういろう本店（国道 1 号線沿いにひときわ目を引く）

メンバーの力作がホームページにアップされていますので、是非ご覧ください。

ギャラリーは毎月更新されて、最新の写真が掲載されています。

<https://jaoclub.com/tama-denen/gallery/>

（バイサイド 藤井 直敏 記・写真）